

議事要旨(2) 2016 年 12 月開催会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）への対応

冒頭、小賀坂副委員長より、2016 年 12 月開催会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）への対応についての検討を行う旨が説明された。その後、小西専門研究員より、資本の特徴を有する金融商品（以下「FICE」という。）のプロジェクトに関する審議資料に基づき詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主なコメントと、それらに対する事務局からの回答は次のとおりである。

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - FICE プロジェクトで議論されている金融商品における負債と資本の区分の考え方が、いずれ概念フレームワークに反映されるという認識に相違ないか。その場合、今度は金融商品以外の負債と資本の区分を検討する必要性が生じる可能性があると考ええる。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- IASB は、FICE プロジェクトにおいて有用な負債と資本の概念が確立した場合に、改めて概念フレームワークの見直しをする可能性があるとして説明している。

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - IASB が提案するガンマアプローチは、アルファアプローチとベータアプローチの掛け合わせにより負債と資本を定義しようとしているが、一義的に表現できない定義は不適切であると考ええる。また、当該提案は、IASB の目指す「簡素化（simplification）」にも逆行していると考ええる。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- いただいた意見を踏まえ、ASAF 会議での発言案を検討する。
- IASB が、概念フレームワーク公開草案と統合的なアルファアプローチだけでなく、ベータアプローチも提案し、これらを組み合わせる形でガンマアプローチを提案している背景には、現行の IAS 第 32 号は堅牢性を有しており、金融危機にも耐えてきたとの認識がある。このため、現行の IAS 第 32 号に含まれる様々な例外規定を、改めて理屈付ける方向で議論が進んでいると理解している。

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - FASB が公表したアジェンダ協議の負債と資本の区別の論点において、IASB と異なるアプローチが提案されている。このため、FASB と IASB の考え方が分かれる可能性があり、問題であると考ええる。

これに対して、事務局より、いただいた意見を踏まえ、ASAF 会議での発言案を検討するとの回答がなされた。

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - ASBJ 事務局の気付事項について、その他の包括利益に区分表示する理論的根拠が欠如しているとしても、区分表示の結果に違和感がなければ問題はない。むしろ、当該区分表示を前提に、フルリサイクリングの会計処理を主張する方法もあるのではないかと考える。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- 負債と資本の区分を主題とする議論において、フルリサイクリングの会計処理の主張を展開することは、論点から外れてしまう可能性がある。
- リターンの種類により財務業績計算書上の表示箇所を分けるという提案は、評価差額の区分に焦点を当てていた従来の IASB の考え方と全く異なるものである。我々は、当期純利益を定義しない場合、議論の基礎を欠き、表示される結果が目的適合的であるかどうかを判断することができない点が問題であると考ええる。

以 上